

平成15年度試験研究成果書

区分	指導	題名	黒毛和種種雄牛別枝肉成績	
[要約]「肉用牛枝肉情報全国データベース」の枝肉情報から、本県産牛の枝肉成を分析した結果、「菊谷」「北国7の8」「福栄」「第5夏藤」等の種雄牛の産子が多く肥育されていた。また、種雄牛別の主要な交配パターンと産子の産肉性を明らかにした。				
キーワード	黒毛和種	種雄牛	枝肉成績	畜産研究所種山畜産研究室

1 背景とねらい

黒毛和種の改良増殖を図っていくためには、枝肉成績を血統情報と併せて分析した結果を生産現場に活かしていくことが重要である。

このため、黒毛和種肥育牛の枝肉成績を種雄牛別にとりまとめて産肉性を明らかにし、繁殖・肥育経営指導の参考に資する。

2 成果の内容

(1) データの概要

分析には(独)家畜改良センターが管理する「肉用牛枝肉情報全国データベース」から、県内で登記され平成14年1月から15年3月までに出荷された肥育牛のデータを抽出して用いた。

ア 全データ数：9,686頭(去勢：5,738頭、雌：3,948頭)

イ 肥育地県別頭数：岩手県6,869頭(70.9%)、宮城県1,136頭(11.7%)、山形県510頭(5.3%)、その他(栃木、群馬、長野等)1,171頭(12.1%)

(2) 父牛別枝肉成績

産子の出荷頭数が多い順に上位20頭と、同時期に後代検定を終了した県基幹種雄牛「金菊徳」について示した(表1)。

ア 去勢：頭数は「菊谷」が最も多く、「北国7の8」「福栄」「第5夏藤」「平茂勝」がこれに続いた。枝肉重量は、「平茂勝」「第5夏藤」が大きく、BMSは「金菊徳」が特に優れ、「福栄」「安糸晴」「美津福」「平茂勝」「北国7の8」が高い値を示した。

イ 雌：頭数は「菊谷」が最も多く、「福栄」「福谷福」「第5夏藤」「安福栄」がこれに続いた。枝肉重量は「第5夏藤」が大きく、BMSは「美津福」「茂系波」が高い値を示した。

ウ 去勢と雌の頭数差が大きいものほど、雌が繁殖牛として保留されていると推定され「北国7の8」「菊谷」「平茂勝」の産子でこの傾向が顕著である。

(3) 母方祖父別去勢牛枝肉成績

肥育牛の母方祖父=繁殖雌牛の父牛毎に枝肉成績を検討した。現在、県内で多数を占めるのは9種雄牛であることから(表2)、これらの牛について主要な交配パターンとともに示した(表3)。

父が「菊谷」「恒徳」「福昌」「正福」の雌牛には、肉量の期待できる種雄牛の交配が望ましい。父が「寿高」の雌牛には、より肉質に優れる種雄牛の交配が必要である。

3 成果活用上の留意事項

今回利用した「肉用牛枝肉情報全国データベース」に収集されたデータは子牛価格安定基金耳標の番号から血統情報を結合しているため、還元されたデータは肥育地が県内のもので6割程度、県外のもので2割程度と推測される。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者

県下全域 黒毛和種飼養農家

(2) 期待する活用効果

地域指導の基礎資料として活用し、適切な交配指導・肥育素牛選定を期待する。

5 当該事項に係る試験研究課題

(857)県有種雄牛の利用及び能力調査(H14~18)

6 参考文献・資料

平成15年度育種組合現地検討会資料

